

幼児期および小学校低学年における運動能力について —新体力テストを指標とした縦断的研究—

武田 静香 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)
指導教員 谷川 尚己

キーワード：ドイツ製遊具 幼児 新体力テスト

1. 緒言

近年、青少年の体力・運動能力の低下が指摘され大きな社会問題となっている。運動発達に非常に重要な時期である5歳児までの幼児期に日常の遊びの中で幅広い運動遊びを経験することにより、自然に多くの動きを習得することが望ましいと考えられている。

そこで、本研究では5歳児までにドイツ製遊具を用いた運動遊びを行うことで、小学生になった子どもの運動能力に及ぼす影響について検証することを目的とした。

2. 研究方法

被験者は、大津市のK保育園に所属していた現在K小学校1年生(男10名、女10名)、S小学校1年生(男1名、女1名)合計22名である。

測定項目はMKS幼児運動能力検査に掲載されている6種目のうち「25m走」「両足連続跳び越し」「捕球」の3種目、新体力テストに掲載されている8種目のうち「握力」「長座体前屈」「50m走」「ソフトボール投げ」の4種目である。測定で得た結果を昨年の5歳児の記録と小学1年生の記録を比較した。

また、小学1年生から得た記録を平成24年度の体力・運動能力調査の対象となった全国の6歳児(以下、全国調査群とする)の新体力テストの記録と比較した。

3. 結果および考察

5歳児と小学1年生の「総合得点」の平均の比較は小学1年生の方が5歳児よりも下回った。評価が5歳児と比べて小学1年生は2人の生徒は向上し、4人の生徒は横ばいだが、16人の生徒が低下している。しかしながら、これらの結

果は判定基準表や得点表に統一性がないため条件を満たしているとは考えがたい。

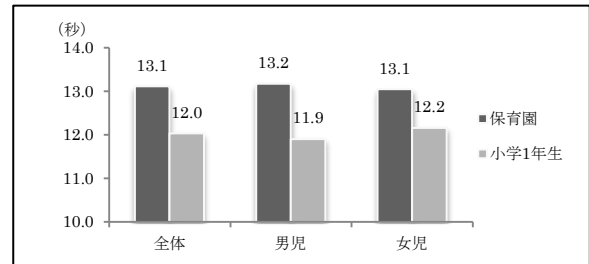


図1 走力の比較 全体および男女別の平均

「走力」の比較を行うと、小学1年生の方が保育園の時より速くなった。ドイツ製遊具を使用することで、幼児の身体活動が豊かになり、運動能力の発達に寄与する可能性が示唆された(図1)。また、小学1年生は全国調査群の平均より記録は下回り、女子の「ソフトボール投げ」の記録は全国調査群の平均より上回った。R社の運動遊びプログラムの「ペダロ乗り」が巧緻性を助長し、女児の記録が上回ったのではないかと考えた。

4. まとめ

昨年の5歳児と小学1年生を比較すると、「走力」の向上が見られたが、その他の項目ではあまりその効果は認められなかった。今後はドイツ製遊具を使用した運動遊びプログラムを定期的・継続的に行うことで、その他の項目の運動能力の向上も見られるのではないかと考える。本研究では、同じ項目で測定を行っていないため、換算や比較のできる方法を考えていく必要がある。

5. 参考文献

木田裕久(2012)ドイツ製遊具を用いた運動遊びが幼児に及ぼす影響